

P3-0885

下肢慢性創傷の予防・リハビリテーション研究会の活動報告

河辺 信秀^{1,2)}, 林 久恵²⁾, 久保 雅昭²⁾, 大塚未来子²⁾, 山端 志保²⁾, 田中 秀和²⁾,
前重 伯荘²⁾, 寺師 浩人^{2,3)}

¹⁾茅ヶ崎リハビリテーション専門学校理学療法学科,

²⁾下肢慢性創傷の予防・リハビリテーション研究会, ³⁾神戸大学医学部形成外科

key words 下肢慢性創傷・切断・糖尿病足病変

【目的】下肢切断の原因となる下肢慢性創傷の治療技術の発展とともにリハビリテーションの需要が高まっているが、診療に参画できる人材の不足が問題となっている。本研究会は下肢慢性創傷の治療促進・予防にむけた介入に必要な病態の理解、創傷治療の過程で発生する心身機能・生活機能改善に必要な知識・技術を共有すること、またこれらの活動を通して「下肢慢性創傷の予防・リハビリテーション」の啓蒙活動を行うことを目的としている。

【活動報告】当研究会は、日本下肢救済・足病学会のサテライト研究会として2014年6月より活動を開始した。発足の経緯は、日本下肢救済・足病学会より日本理学療法士協会に打診があり、協会から依頼された理学療法士が研究会へ参加する形で活動がスタートした。研究会は形成外科医、整形外科医、リハビリ科医、義肢装具士、作業療法士、理学療法士で構成されている。具体的な活動内容としては、第7回日本下肢救済・足病学会(2015年7月12日・横浜)におけるリハビリテーション関連職種に向けたシンポジウム・教育講演、下肢慢性創傷患者のリハビリテーションに関する研修会を企画している。また、定期的に会議を開催し、臨床現場にて研修を行うシステムの構築も視野にいれ、人材育成計画を策定中である。

【考察】本研究会が対象とする疾患群への介入は理学療法領域において明確な位置づけがなされていない。治療体系の確立には、①病状を把握、予測できること、②禁忌事項を理解できること、③足部機能の評価に基づき運動療法を立案できること等が必要である。そのためには、エキスパートによる実践報告の蓄積、効果検証が求められる。本研究会では、これらの課題を解決する具体的な計画立案を行い、目標を達成していきたいと考えている。

【結論】下肢慢性創傷領域におけるリハビリテーションの需要に答えるべく理学療法介入方略の確立および人材育成をめざし活動を継続していきたい。